

# 凡事徹底(縁)

八代第一中学校

生徒指導通心

第34号 2024. 2. 22 (木)

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践 綱領：至誠貫徹・真理探究・耐久持続  
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』  
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦 一中プライド～

## 新たな生活でのヒント～日頃からポジティブに考えると人生観が変わってきます～

### ○「本当のプラス思考でどんな苦難も乗り越えよう！」

自動車開発に携わる友人から年末に聞いた話です。友人がプロジェクトを率いていた時に、チームのスタッフが開発したシステムのプログラムに不具合が生まれました。担当者は落ち込み、迷惑が掛からないかと焦っていました。ここで「本当のプラス思考」を知らなければ、「なぜ不具合を出してしまったんだ」と責め立て、余計に落ち込ませていたかもしれません。もちろん、原因を追及しても不具合がなくなるわけではありません。この場面がプラスに働く場面や意味を考え、スタッフにこう伝えました。「プログラムの不具合があったおかげで二度と同じ不具合を出さずに済みます。起きてしまったことは仕方がないから、今、何が必要かを一緒に考えましょう」つまり、不具合というネガティブな出来事は変えられないが、「これで同じ不具合は起きない。そのことが今分かって良かった。」というプラスの意味を付け加えたそうです。プラスの側面を伝えることで、スタッフの困惑した顔つきは一変し、チームが一丸となって問題解決に前向きに取り組むことができたそうです。このようにして開発された新しい商品が、これから私たちのもとに届くのです。

## 思考の習慣～プラス思考がすべてにおいて良いかと問われれば、答えはNOです～

### ○「本当のプラス思考」は、思考の習慣

目の前の出来事から目を背け、無理やりプラスに考えるのは難しいと思います。起きた出来事そのものは変えられないが、どんな出来事にもプラスに働く場面や意味が必ずあると思います。本当のプラス思考を作るのは普段の習慣です。目の前の小さな出来事にもさまざまな側面があることを知り、何の役に立つのか、肯定的な意味があるかといった側面で考えてみましょう。私は、仕事において常にこのように考えて行動してきました。ピンチは最大のチャンスです。この思考が習慣になると、無理やりプラス思考に持って行く必要はなくなり、物事の側面をポジティブに捉えられるようになります。難しく考えずに、前向きな気持ちで始めてみましょう。プラス思考がすべてにおいてよいかと言われれば、No! です。ただし、ネガティブに捉えた場合でも、その原因や要因、その根拠を把握してポジティブに発言し、行動することで、プラスに変わって行きます。日頃からポジティブに表現できると人生観が変わってきます!

## 後輩へバトンを渡す最高の舞台へ～15年間のあゆみの集大成です～

- ① 一中プライド（誇り）を持ち、自分で正しく、身だしなみを整えよう。
- ② 礼儀正しく堂々とした『卒業証書』の受け取り(返事)を行おう。
- ③ 3年間のあゆみを思い浮かべながら、胸を張って堂々と歌おう。
- ④ 儀式的行事の意味を理解し、荘厳で厳粛な気持ちで臨もう。

3年生のみなさんとのお別れの季節が到来しました。卒業証書授与式に向けた練習も本格的に始まります。義務教育を終えた証として、校長先生より『卒業証書』が手渡されます。卒業証書授与式は、義務教育の集大成であり、15年間みなさんが立派に生きてきた『証』であり、これまで支えていただいた全ての人に感謝の気持ちを「姿勢」で表す、人生で一度しかない大切な儀式の日になります。練習においても、これまでみなさんが積み重ねてきたことに自信と誇りを持ち、自分のあるべき姿を自分でイメージして臨んで欲しいと思います。先輩からバトン（一中の歴史）を引き継ぐ1、2年生のみなさんも、3年生の最後の姿をしっかりと目に刻んでください。